

鵜川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

「ピリカ」とは、アイヌ語で「美しい、良い」などを意味する言葉です

第9回 「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。

～美しい川をめざして～

平成20年9月13日(土) 9:00より、第9回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。美しい川宣言(案)では、「防災」「環境」「教育文化」「観光」毎に目標とアクションプログラムを立てることとなっており、実際にアクションプログラムを体験するため、午前中はむかわ町教育委員会主催の秋の干潟観察会に参加し、午後には意見交換を行いました。7名の委員が出席しました。

アクションプログラムの体験

秋の干潟であそぼうよ! ～秋の干潟観察会～

(むかわ町の小学生 20人を超える参加)

主催: むかわ町教育委員会

先生: ネイチャー研究会 in むかわ

時間: 午前9時 ~ 午後1時

場所: 役場前 ~ 鵜川河口干潟

スケジュール:

- ・ オリエンテーション
- ・ 干潟へ移動(花さがし、鳥さがし、葉っぱ探し)
- ・ 干潟の観察(鳥・ゴカイの話、ゴカイの観察)
- ・ お弁当・感想文
- ・ 役場へ移動(かくした葉っぱ探し)
- ・ まとめ(イエスノークイズ)

午前中は子ども達のグループに交じって、干潟のピクニックに参加しました。一緒にゴカイを探したりクイズをしたりしながら、干潟の大切さと子ども達とのふれあいの大切さの両方を感じることができました。

お昼には、委員の方の手造りの石狩鍋をよそってあげると、子ども達全員で、声を合わせて大きな声でお礼を言ってくれました。



干潟へ移動(葉っぱ探し)



干潟の観察(ゴカイの観察)



まとめ(イエスノークイズ)



お弁当(石狩鍋をプレゼント)

午後はネイチャー研究会 in むかわの梅津先生と門村先生にも加わっていただき、午前中の干潟観察会に参加して感じたこと、子ども達にどのような鶴川を引き継いでもらいたいのかについて意見交換を行いました。意見交換会で提出された意見は、下記のようなものでした。

意見交換会（抜粋）

- * プロジェクトに参加しているメンバーと同じ釜の飯を食べることで、より親しみを感じることができた。
- * 子どもと大人が関わり、心が触れることは大変良いことだと思う。
- * 貴重な干潟の役割や環境を守ることを子ども達へ伝え、かつての干潟を取り戻し、渡り鳥の楽園を未来の子ども達へバトンタッチしたい。
- * シラサギの姿を初めて見て、その美しさに感動した。干潟を大事にしていかなければならないと実感した。
- * 濁っていても自然の川であれば美しいと思う。泥も美しい。干潟で泥まみれになって遊ぶような鶴川独自の美しさを捉えることが大事である。
- * 子どもと一緒にゴカイを見る機会がなかったので貴重な体験であった。今後も継続していただきたい。
- * まず、大人が感動することが必要だと感じた。
- * 取組みがマンネリにならないように、変わった手法も取り入れ子供たちの興味関心を持続させるようにしていきたい。
- * 泥が汚いということが汚い川ということではなく、トータルで川の自然が美しく見えるというのがいい。
- * 煩雑さや激流、緩やかな流れなどトータルで美しい川が宣言の要素となる。
- * 見た目の美しさというより、多様な生物が生きている、養う力のある川であるべきだ。
- * 清濁あわせ飲みながら滋養を養う川。きれいなものだけではなく、全てのものを飲み込みながらきれいになっていく。
- * つなげる川。現在と過去と未来。山と海と魚。大人と子供。いろいろなものをつなげる。
- * 干潟体験をむかわ町の小学生全員に体験してもらいたい。
- * ゴカイを知らない子が多かったので、干潟に入り観察会を行った。
- * （小学生全員に体験してもらうには）学校の姿勢による。カリキュラムとしてどのように取り組むかにかかっている。
- * 学校だけで取り組むのは難しい。干潟をよく知っている人の力が必要である。
- * 子ども達から得たもの、子ども達へ教えたものを区分しながら、一級河川鶴川の美を追求することで美しい川宣言へつなげる。
- * 干潟まで車で入れないことの意味。利便性と引き換えに大事なものを失う。美しい場所とはそのような意識から生まれる。
- * 入口に通行止めの看板があることの意味を知ってもらいたい。子ども達と行く時は必ず看板を読んで干潟の重要性をわかってもらう。散策、車椅子、管理。利用の仕方は皆で話し合っていくべきだ。

